

クリニカルパス委員会

《概要》

1 クリニカルパス委員会の現状と今後について

今年度は、平成 23 年 10 月の電子カルテ導入におけるクリニカルパス(以下、パスとする。)のスムーズな電子化への移行を主目的とし、パスの電子化により医師、看護師の業務量の軽減・効率化につながるよう、新規パス作成の奨励、それに伴うパス適応率の増加を目標とした。

電子化移行前に、パス項目の名称・文言の院内統一を図り、バリエーション・アウトカム・その他の文言について抽出を行い、各種マスタの検討・整理・作成や、各種設定項目について調整を行った。

また、関係部署との連携を緊密にし、問題点の抽出を図り、運用以前に問題点の把握が可能となり、スムーズに電子化へ移行することができた。電子化移行後には、パスマスタの登録方法・修正方法についての操作説明を行い、より効率的に業務が行えるよう現場でパスの修正ができるようにした。その効果として電子カルテ導入以前より、新規パスの登録件数が増加した。

電子カルテ移行の際、運用されていないパスの電子化は行わなかったが、電子カルテ導入パスは、導入前の 108 種類から 163 種類(+55 種類)となった。パス適応率は 38.3%(対前年度比 -0.5%)であったが、今後さらなるパス症例の対象拡大、適応率の向上に努めるとともに、DPCや医療の質の向上のためのバリエーション収集、分析を行い、より効率性を図ることが課題となる。

2 委員構成

- ・診療局 8名
- ・放射線科 1名
- ・看護局 2名
- ・検査科 1名
- ・栄養管理科 1名
- ・事務局 2名
- ・薬剤科 1名

《実績》

平成 23 年度 院内パス 症例数 TOP 20

※1 構成率(%):パス件数/パス合計件数

NO.	パス名	件数	構成率(※1)
1	経膈分娩パス	919	28.0%
2	CAGPCI クリニカルパス	398	12.1%
3	帝王切開パス	241	7.3%
4	白内障	241	7.3%
5	TUR-BT パス	102	3.1%
6	レミケードパス	97	3.0%
7	急性上気道炎・肺炎パス	83	2.5%
8	ソケイヘルニア TAPP	79	2.4%
9	羊水検査パス	61	1.9%
10	内視鏡下副鼻腔手術・鼻中隔矯正術パス	60	1.8%
11	ソケイヘルニアパス(日帰り用)	58	1.8%
12	子宮内膜搔爬・流産処置・中絶処置	55	1.7%
13	脳血管造影パス	48	1.5%
14	前立腺全摘術パス	43	1.3%
15	慢性硬膜下パス	43	1.3%
16	小児皮膚腫瘍日帰りパス	41	1.2%
17	TUR-P パス	40	1.2%
18	口蓋扁桃摘出術パス	34	1.0%
19	ラパ胆用パス	33	1.0%
20	IUFD/中期中絶パス	29	0.9%